

## 鉄道総研が開発した高速鉄道関連技術を スペイン国際会議で紹介

平成 26 年 7 月 22 日  
公益財団法人鉄道総合技術研究所

公益財団法人鉄道総合技術研究所（以下、鉄道総研）は、日本の鉄道技術のグローバル化を進める一環として、去る 6 月 25 日から 27 日にかけてスペイン・コルドバ市で開催された VIII International Conference of Engineering for High Speed（第 8 回高速鉄道技術に関する国際会議）において、鉄道総研における高速鉄道に関連する技術開発に関して講演を行いましたのでお知らせします。

本国際会議は、高速鉄道の普及促進を目的に、スペインの鉄道財団（Fundación Caminos de Hierro）が U I C（世界鉄道連合）と連携して毎年開催しているもので、今回で第 8 回目となります。今年の会議では、欧州各国のほか、高速鉄道の導入が計画されている米国、インド、ブラジルなどから、あわせて約 200 名が参加し、25 件の発表が行われました。今回は新幹線に代表される高速鉄道の実現から 50 周年を迎えることを記念し、鉄道総研からも講演者が招聘され、鉄道総研の佐藤豊国際課長（元 U I C 世界部門専門官）が、講演を行いました。講演内容は、スラブ軌道やセミアクティブサスペンションなど、この 50 年間に実用化され新幹線で使われている要素技術の概要のほか、早期地震警報システムや沿線の騒音対策のための研究開発です。参加者からは、早期地震警報システム等に関する質問を受けるなど、日本の高速鉄道の安全性や信頼性に関わる研究開発に高い関心が示されました。



写真 VIII International Conference of Engineering for High Speedにて講演を行う鉄道総研国際課長 佐藤 豊